

墨と膠

入場無料・申込不要

中国の墨の最高峰は明末に作られた「明墨」とされてきましたが、近年それ以前の墨の状況が少しずつ判明してきました。本シンポジウムの前半では宋墨の謎に迫ります。

墨の製造や文化財の修復に不可欠の接着剤である膠。その製造が現在危機に瀕しています。シンポジウムの後半では、膠を使用し、製造の経験を有する二つの研究所の報告、最新の科学分析を通して膠について考えます。

日時：平成 23 年 5 月 21 日（土） 13：00～17：00

会場：奈良女子大学記念館 2 階 講堂

プログラム

「宋墨の謎に迫る一新出土資料から」

松尾良樹（奈良女子大学）

「膠のコラーゲンから読み取る科学文化社会情報」

中澤 隆（奈良女子大学）

「元興寺文化財研究所と膠」

植田直見（元興寺文化財研究所）

「川面美術研究所と膠」

多田牧央（川面美術研究所）

主催：奈良女子大学 古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業本部

共催：『文化財に含まれる膠の自然科学分析による古代文化史及び技術史の解明』プロジェクト

（「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」採択、代表：宮路淳子）

東洋漆工史研究会（代表：北村昭斎）

奈良女子大学 古代学学術研究センター

「鳳文御墨」 清代 高さ 8.4cm 底幅 4.0cm 厚 1.3cm
圭形。墨の表裏両面とも、鳳凰の飛ぶ姿。頂端は陰文填金の篆書「御墨」二字。
この墨の図案のデザインは緻密で優雅、造形は独特、墨質は堅く細やか。名人
の手になるものに違いない。（奈良女子大学蔵）

お問い合わせ先

〒630-8506 奈良市北魚屋西町
奈良女子大学 古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業本部

Tel : 0742-20-3563 E-mail : proteomics@cc.nara-wu.ac.jp